

# 2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立坪生小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月6日

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
<p>○不登校生徒への丁寧な支援を引き続き継続してもらいたい。</p> <p>○地域の多様な人材を職業学習などの機会を活用してほしい。</p> <p>○交通安全や地域のボランティア活動など地域との連携を引き続き強化してほしい。</p>	<p>○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は99.28% (校区平均) であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。</p> <p>○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は87.8% (校区平均) であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。</p> <p>○前年度実施した標準学力調査においては、全領域に課題がある。</p>

育成する力 資質・能力	<p>○課題発見解決能力</p> <p>○コミュニケーション能力(自己効力感)</p> <p>○チャレンジ精神</p> <p>○思いやりと感謝の心(地域貢献)</p>
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<p>○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす</p> <p>○互いを認め、よりよい人間関係を形成する</p> <p>○自分に必要な挑戦を選択してやってみる</p> <p>○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる</p>
中学校区として統一した取組等	<p>○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など)</p> <p>○体力や健康についての自己課題の解決</p> <p>○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実</p>

## III 自校

ミッション
児童と授業・行事を作り上げるとともに、確かな学力を身に付けるようにする。

学校教育目標
学び合い 学び続ける

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「授業の中で『やってみたい』と思ったことに挑戦できている」肯定的回答⇒83%</li> <li>○「学校が楽しい」肯定的回答⇒86%</li> <li>○「体を動かすことが楽しい」肯定的回答⇒93%</li> </ul> <p>・おおむね目標を達成しているが、各種調査の結果から、思考力、判断力、表現力等に課題が見られる。また、否定的な回答をした児童も一定数いるという現状を受け止め、引き続き児童一人一人に寄り添って指導を行っていく。</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校に対する安心感 肯定的回答⇒96%</li> </ul> <p>・多様な価値観の中、学校が進める教育を丁寧に説明したり、保護者の意見をもとに修正したりする。</p> <p>&lt;職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「仕事にやりがいを感じている」⇒100%</li> </ul> <p>・組織体制の見直しや、職員同士の対話を通して、全職員で共通理解を高めていく。</p>

育成する力 資質・能力	課題発見解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりと感謝の心 (地域貢献)	
めざす子ども像	5・6年	解決に向けて、主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え、行動する
	3・4年	解決への方法を考え、見通しを立てる	人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える	得意なこと苦手なことやってみる	人や地域のためになることを考える
	1・2年	もんだいにきづき、かだいをたてる	じぶんのかんがえやきもちをいう	もくひょうをもつてやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	教科等	「かく力」を育む授業づくり ～文章を正確に読む力とかく意欲の向上を通して～
	主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を正確に読む力を高める指導</li> <li>・かく意欲を高めるための工夫</li> </ul>
めざす授業の姿	児童の「かく力」を育む授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立坪生小学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
						□指標に係る 取組状況	力 付 け た 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状 況	力 付 け た 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策
1	児童の「かく力」を育む	★新規	文章を正確に読む力とかく意欲の向上を図る	①児童の「文章を正確に読む力」や「かく意欲」について交流する時間を設定し、「かく力」を育む授業づくりについての理解を深める。  ②「かく力」に関する児童のつまずきを把握し、課題を克服できるように授業づくりを行う。	①学習過程（授業の流れ）や教材の工夫についての実践を学期に2回以上交流する。  ①各学期の学期末テストにおける「読む」の観点の学級平均得点 80点以上  ②標準学力調査における「書くこと」領域の校内正答率を前年度より向上させる。  ②児童アンケート「自分の考えをかくことは好きですか。」（4段階）肯定的評価 80%以上	①校内研究授業を2回、それに向けた事前の研修を3回、授業公開を4回以上行い、文章を正確に読む力とかく意欲の向上について協議を行った。また、研修後に研究だよりを発行したり、研修での学びを授業に還元できるような振り返りを行った。→1学期の学期末テストにおける「読む」の観点の校内平均点 80.8点  ②学力テストや学期末テストを分析し、各学級でのつまずきを把握した。「漢字」「書くこと」の理論研修も行った。授業でのさらなる工夫が必要である。→児童アンケート「自分の考えをかくことは好きですか。」肯定的評価児童 76%	3	3	①単元・教材を通して付けたい力を明確にした授業づくり及び日々の実践交流を行う。  ②児童が自らの考えを表出するための手がかりとするために、「書き方の例」を児童に示したり、これまで学習した「書くための技」を共有したりする。	①校内研究授業を5回、それに向けた事前の研修を4回、授業公開を7回行い、「かく力」を育む授業づくりに生かすことができた。→2学期の学期末テストにおける「読む」の観点の学級平均得点 85.7点  ②相手意識や目的意識をもった「かく活動」を単元の中に位置づけることができた。また、「書くための技」を児童と共有したり、ワークシートを工夫したりすることができた。→児童アンケート「自分の考えをかくことは好きですか。」肯定的評価児童 76%	4	3	3	①引き続き「かく力」を育むための授業研究及び授業後の交流を行う。その際、異学年の学習内容とのつながりを意識して、授業づくりを行う。また、授業研究で得られた学びを日々の授業で活用し、その成果を交流する機会を設ける。  ②各種調査や日々の指導の中で、児童のつまずきの分析を行う。また、各学年の児童の実態と今年度取り組んだ「かく」活動を次年度へと引き継ぎ、継続的に児童の「かく力」を向上させられるように取り組んでいく。
1	学力の基礎基本の定着	★新規	教職員同士が意見交流をもち、児童が確かな学力を身に付けることができるようにする。	①帯タイムを設定し、学習する習慣を確保する。基本的な計算問題を帯タイムに取り入れる。  ②児童が確かな学力を身に付けているか取組をもとに対話を重ね、交流する場を設定する。	①検定シートの合格率（国・算）各学級75%以上  ②放課後の時間を活用し、教材研究や児童についての交流を週に3回以上行う。→検定シート「書く」問題合格率各学級70%以上	①帯タイムでは、曜日ごとに内容を決め、全校で取り組んだ。百マス計算やえんぴつタイム（条件作文）などを実施し、基礎基本の定着を図った。  ②学習内容の確認や教材研究、成果物・板書などの交流を、週に3回以上行った。	4	3	①児童が安心して検定シートに臨めるよう、実施前に練習問題に取り組み、問題の解き方や出題範囲の確認を行う。検定シート国語・算数（10月3回実施）  ②授業づくりポートフォリオをもとに、授業づくりについて交流する場を設定する。	①事前に練習問題に取り組み、出題形式や解答方法の確認を行った。実施後は、1回ごとに直しや解説を行い、類似問題を解くことができるような手立てを行った。2学期合格率国語：69.7%算数：76.1%  ②授業づくりや進度、実践結果について学年間でこまめに交流を、週に3回以上行った。→検定シート「書く」問題合格率各学級80.4%	4	3	3	①基礎基本の定着につなげていくために、検定シートの内容や実施回数を精査していく。来年度も引き続き、スキルアップタイムなどを活用し、漢字や計算問題に取り組む機会を設けていく。  ②学びづくりポートフォリオを活用し、個の伸びについての確かな見取りを行っていく。また、職員で共有し、児童が確かな学力を身につけられるようにする。

1	自己を大切に し、他者を尊重する心を育てる指導の充実	新規	互いを認め、相手を大切にできる児童を増やす。	<p>①ことばを大切に する指導を日常的に行う。</p> <p>②児童同士の相互評価の場を、柔軟に設定する。</p>	<p>①児童アンケート 「相手を大切に したことば遣いをして いる。」(4段階) 肯定的評価85%以上</p> <p>②教職員アンケート 「児童同士の相互評価の場を、意図的に設定している。」(4段階) 肯定的評価90%以上</p>	<p>①学校全体での指導、各学級での指導を継続して行っているが、実際には、まだ言葉遣いに課題がある児童が多い。 ⇒児童アンケート 「相手を大切に した言葉遣いをして いる。」 肯定的評価児童89%</p> <p>②たてわり掃除、児童会行事、異学年交流などを通して、互いに認め合う場を設定している。 ⇒教職員アンケート 「児童同士の相互評価の場を、意図的に設定している」 肯定的評価教職員100%</p>	3 3	<p>①学校全体・各学級・個人への丁寧な声かけを継続して行う。また児童が言葉を大切にできるよう、児童会から放送を行ったり、目が届きやすい場所に掲示を行ったりする。</p> <p>②日々の学習、スタンブラリー、音楽発表会などを通して、互いを認め合う場を設定していく。</p>	<p>①言葉について自分事としてとらえるために、よい言葉とよくない言葉を各学級で考えた。それを児童会がまとめ、各学級に掲示することで、学校全体で意識をすることができた。月間目標も言葉について意識した内容を児童会中心に設定した。 ⇒児童アンケート 「相手を大切に した言葉遣いをして いる」 肯定的評価児童86%</p> <p>②児童同士の評価を学校全体で行った。継続して場の設定を行っていく。 ⇒教職員アンケート 児童同士の相互評価の場を、意図的に設定している」 肯定的評価教職員100%</p>	4 3 3	<p>①引き続き、学校全体・各学級・個人への丁寧な声かけを行っていく。また児童が言葉を大切にできるよう、放送を使って評価の場を設定する。学校全体に意識が広がってきたため、掃除や学校行事などの異学年交流の中でも言葉について話をしていく。</p> <p>②継続的に児童同士が互いを認め合う場を設定していく。また、教員の意識も高まるよう、定期的に振り返りを行う。</p>
1	運動に親しむ 資質や能力の育成	新規	仲間と楽しみながら体力の向上を図るとともに、運動を親しむことのできる児童を増やす。	<p>①体育的活動(行事)を通して、仲間と体を動かすことの楽しさを実感できるようにする。</p> <p>②委員会などと連携し、誰もが仲間と楽しみながら運動に触れる機会を設定し、その活動を保護者へも啓発していく。</p>	<p>①児童アンケート 「仲間と体を動かすことが楽しい」(4段階) 肯定的評価 90%以上</p> <p>②保護者アンケート【学校での外遊びや習い事を含め、お子様は自ら体力づくりに取り組んでいる】 肯定的評価85%以上</p>	<p>①体育的活動を充実させるための教員研修を行い、授業などに取り入れた。 ⇒児童アンケート 「仲間と体を動かすことが楽しい」 肯定的評価児童 88%</p> <p>②体育委員会が室内でもできる運動遊びを動画で紹介し、全校で取り組んだ。また、新体力テストの結果や取り組んでほしい運動を紹介するたよりを作成し、保護者への啓発に努めた。 ⇒保護者アンケート 「学校での外遊びや習い事を含め、お子様は自ら体力づくりに取り組んでいる」 肯定的評価保護者83%</p>	3 3	<p>①体育の授業で、運動することで得られる心地よさを味わう場面を意識的に設ける。(柔軟等) また、運動能力だけでなく、取り組む姿勢に着目した振り返りの充実を図る。</p> <p>②全校や学級で取り組む運動遊び行事を企画する。(長縄大会等) 保護者向けのたよりを通じ、学校での取組や課題を周知する。</p>	<p>①発達段階や教員研修を踏まえ、準備運動に運動遊びを取り入れたり、活動中に身体感覚を意識する声かけを増やしたりした。 ⇒児童アンケート 「仲間と体を動かすことが楽しい」 肯定的評価児童 90%</p> <p>②家庭で取り組みやすい運動遊びや、なわとび大会に向けて練習に励む姿などを紹介するたよりを作成した。(たよりは児童向け・保護者向けからなる両面印刷とした。) ⇒保護者アンケート 「学校での外遊びや習い事を含め、お子様は自ら体力づくりに取り組んでいる」 肯定的評価保護者77%</p>	4 3 3	<p>①発達段階に応じて、運動の有効性や必要性について根拠を示しながら伝える。児童だけで取り組みやすい運動遊びを継続する機会を増やす。新体力テスト等に取り組む際、自身の変化が感じられるようにスモールステップの目標を立てる。</p> <p>②体力向上に関する保護者の興味関心を高めるために、たよりで情報を提供するだけでなく、児童とともに運動する機会も提供する。(PTC行事等を活用する。)</p>

1	地域・保護者から信頼される学校づくりの推進	新規	児童と保護者が安心・安全な学校生活を実感できるようにする。	①児童が毎日楽しく登校したり安心して過ごしたりできるような学級経営を行う。	①児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」(4段階) 肯定的評価90%以上	①学級活動や授業の中で、認め合う場や活躍する場を設定し、取り組んだ。 ⇒児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 肯定的評価児童89%	3	3	①学級経営では、人間関係づくりや学習活動の工夫を行い、継続して認め合う場や活躍の場の設定、学級遊びなどを実践していく。	①学級や他学年と交流する場を増やし、互いに認め合う場の設定を行った。 ⇒児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 肯定的評価児童90%	3	3	4	①引き続き、学級・学年での人間関係づくりの充実を図るために、学級活動や縦割り班活動などで、できたことやがんばりを認めていく場を設定する。
				②保護者や地域の多様なニーズを把握し、様々な方法でタイムリーに情報を発信する。	②保護者アンケート 「お子様は、楽しく学校へ通っている」(4段階) 肯定的評価97%以上	②月に1回以上の学校だよりや学年通信を発行することによって、児童の様子を保護者に伝えることができた。 ⇒保護者アンケート 「お子様は、楽しく学校へ通っている」 肯定的評価保護者92%			②欠席が続いたり、保護者からの相談があったりした時には、保護者連携を早く丁寧に行う。また、必ず複数で対応する。	②欠席者や相談があった場合には、できるだけ即日保護者への連絡を行った。 ⇒保護者アンケート 「お子様は、楽しく学校へ通っている」 肯定的評価保護者95%				②保護者との丁寧な情報共有を行い、学校の取組や児童の様子を具体的に発信していく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。